

2016年12月11日(日)朝10：10～ 待降節第3、役員会等
12月第2待降節第3公同主日礼拝式説教 日本アライアンス庄原基督教會

説教題：キリストの先駆者、ヨハネ

聖書：マタイ 11章7～19節

＜口語訳＞

新約聖書16～17頁

マタイ 11章7～19節

＜新共同訳＞

新約聖書19～20頁

マタイ 11章7～19節

＜新改訳第3版＞

新約聖書20頁

マタイ 11章7～19節＜塚本訳＞

新約聖書97～98頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

◇マタイ書は、**使徒マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。

◇マタイ24章から**主イエス様**は、ご**自身**を人の**子**と呼んで、**人の子の来臨・再臨**について語り、25章では、10人の乙女の譬(1～13節)、タラントの譬(14～30節)、そして、本日の**人の子の裁き・裁きの裁定基準**を提示しておられます。

⇒先週は、マタイ13:53～58から「**郷里**では受け入れられなかつた**神の御子イエス**」を見ましたが、本日の箇所マタイ11:7～19からは、「**キリストの先駆者、ヨハネ働き**」に注目し、**神の御子イエス様**との関わりを知りたいと願います。

⇒「**ヨハネ**」は、11、12節で、「**バプテスマのヨハネ**」と紹介されていますが、その名の意味は、「**神は恵み給う**」というヘブル語名「**ヨハナン**」のギリシャ語の音読みです。

⇒彼は、「**荒野の声**」(3:3)で、**神の御子**を迎えるため、人々に「**悔い改め**」を求めた人です。

本論；

◇本日、マタイ書11章7～19節から主の使信に思い・心をとめます。

◆ マタイ11章7～19節；使徒マタイは、バプテスマのヨハネをキリスト・イエス様の先駆者・先駆けとして示しています。

◇7～19節；塚本訳◆イエス、ヨヘネをほめる
「7 ヨハネの弟子たちがかえってゆくと、イエスは群衆にヨハネのことを話し出された。——「(さきごろ)あなた達は何を眺めようとして、荒野(のヨハネの所)に出かけたのか。風にそよぐ葦だったのか。(まさかそうではあるまい。)

- 8 それでは、何を見ようとして出かけたのか。柔らかいものを着ている人か。見よ、柔らかいものをまとった人ならば、王の御殿にいる。
- 9 それでは、何のために出かけたのか。預言者を見るためか。そうだ、わたしは言う、(預言者だ。)預言者以上の者(見たの)だ。
- 10 『(神は言われる、)『見よ、わたしは使いをやって、あなたの先駆けをさせ、』、あなたの『前に道を準備させる』』、と(聖書に)書いて

あるのは、この人のことである。

- 11 アーメン、わたしは言う、女の産んだ者の中に、洗礼者ヨハネより大きい者はまだ出たことがない。しかし天の国で一番小さい者でも、彼より大きい。
- 12 とにかく、洗礼者ヨハネの(現れた)時から今まで、天の国は暴力で攻め立てられ、暴力で攻めた者がそれを奪いとっている。
- 13 すべての預言書と律法と〔聖書〕が預言しているのは、ヨハネ(の現われる時)まで(で、天の国はすでに来ているの)だから。
- 14 (今わたしが言ったことを)信ずる気があなた達にあるなら(わかることだが、)ヨハネこそ、(救世主の先駆けとして)来るべき(預言者)エリヤである。
- 15 耳のある者は聞け。
- 16 だが、(気ままな)この時代(の人)を何にたとえようか。子供たちが市場に坐って(嫁入りごっこや弔いごっこをしながら)、こう言って他の子供たちに呼びかけるのに似ている。——
- 17 笛を吹いたのに、踊ってくれない。弔いの

歌をうたつたのに、悲しんでくれない。

18 なぜならその人たちは、ヨハネが来て飲み食いしないと『悪鬼につかれている』と言い、

19 人の子(わたし)が来て飲み食いすると、『そら、大飯食いだ、飲兵衛だ、税金取りと罪人の仲間だ』と言うのだから。しかし(神の)知恵の正しいことは、(ヨハネと人の子とによる)その業が証明した。」と、使徒マタイは語っています。

◇10～14節 ; 「『(神は言われる、)『見よ、わたしは使いをやって、あなたの先駆けをさせ、』、あなたの『前に道を準備させる』』、と(聖書に)書いてあるのは、この人のことである」、「女の産んだ者の中に、洗礼者ヨハネより大きい者はまだ出たことがない」、「天の国で一番小さい者でも、彼より大きい」、「洗礼者ヨハネの(現れた)時から今まで」、「天の国は暴力で攻め立てられ、暴力で攻めた者がそれを奪いとっている」、「すべての預言書と律法と[聖書]が預言しているのは、ヨハネ(の現われる時)まで」、「天の国は

すでに来ている」、「ヨハネこそ、(救世主の先駆けとして)来るべき(預言者)エリヤである」と、神の御子は、ヨハネをほめておられます。

⇒**神の御子は、ヨハネが、神の御子の先駆け、先駆者**であることを群衆に語っておられ、ヨハネを「女の産んだ者の中に、洗礼者ヨハネより大きい者はまだ出たことがない」と評価しつつも、「天の国で一番小さい者でも、彼より大きい」と、**神の御子**による天の国を指し示しておられます。

⇒**「洗礼者ヨハネの(現れた)時から今まで」、「天の国は暴力で攻め立てられ、暴力で攻めた者がそれを奪いとっている」、「すべての預言書と律法と[聖書]が預言しているのは、ヨハネ(の現われる時)まで」、「天の国はすでに来ている」と、神の御子**は語りますが、KT師は、「天の国」を人間の世界に置きかえつつ、**神の御子**が人となって人間世界に入り、**ヨハネが神の御子の先駆け**として、悔い改めを求める状況と理解される。

⇒**神の御子とヨハネ**の共同作業なのです。

◇16～19節；神の御子は、「(気ままな)この時代(の人)を何にたとえようか」、「人の子(わたし)が来て飲み食いすると、『そら、大飯食いだ、飲兵衛だ、税金取りと 罪人の仲間だ』と言う」、「人の子(わたし)が来て飲み食いすると、『そら、大飯食いだ、飲兵衛だ、税金取りと 罪人の仲間だ』と言う」と、「神の御子」と「ヨハネ」を批判、「神の御子とヨハネ」に聴き従わないことを、当時の一般の人々が使っていた話、「子供たちが市場に坐って(嫁入りごっこや弔いごっこをしながら)、こう言って他の子供たちに呼びかけるのに似ている」とか「笛を吹いたのに、踊ってくれない。弔いの歌をうたつたのに、悲しんでくれない」とかを神の御子は、引用しつつ、暗に示しておられるのです。

⇒ここでの**神の御子のことば**は、群衆が、神の御子を無視して十字架につけたり、ヨハネの首を切っていのちを奪う暴力的行為にまでおよぶ出来事を暗示しておられるのです。
⇒KT師は、礼拝説教は、赦さざる者に赦しの宣言をし、神の恵みのわざを示すと仰せです。

◇7～9節；「あなた達は何を眺めようとして、荒野(のヨハネの所)に出かけたのか。風にそよぐ葦だったのか」、「柔らかいものをまとった人ならば、王の御殿にいる」、「わたしは言う、(預言者だ。)預言者以上の者(を見たの)だ」と、神の御子は、ヨハネを神の最高の預言者として紹介しておられます。旧約のすべての律法と預言を総括するという意味で、神の御子に手渡したのです。

⇒私たちは、神の御子が再臨して下さるまでの間、この地上において、「神の赦しの使信」を「荒野の声」のように無視されても、礼拝を通して、「神の語られたいのちのみことば」に生きて行かせていただきたいのです。

⇒KT師は、ご自身の奉仕された教会で、身体的には、からだを休め、礼拝出席を控えた方がよいと感じたお方もあったそうですが、礼拝を優先し、結果として、それが死を早めた事例もあったそうですが、「神のみことば」に聴き、「神のみことばの生活」をすることで、いのちが尽きたとしても、神の御子と共に生きたので、何の悔いも残らないと仰せです。

結論：

- ◇**神**は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇**マタイ書**は、**使徒マタイ**が、**ユダヤ人**の立場で**王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ24章**から**主イエス様**は、**ご自身を人の子**と呼んで、**人の子の来臨・再臨**について語り、**25章**では、**10人の乙女の譬(1～13節)**、**タラントの譬(14～30節)**、そして、**本日の人の子の裁き・裁きの裁定基準**を提示しておられます。
⇒先週は、**マタイ13:53～58**から「**郷里では受け入れられなかった神の御子イエス**」を見ました。
- ⇒本日の**マタイ11:7～19**からは、「**キリストの先駆者、ヨハネ働き**」に注目、**神の御子イエス様**との関わりを知りたいと願います。
- ⇒**神の御子**と**神の御子の先駆けのヨハネ**は、「**天の国**」のため、共に働くものであると、**神の御子**は、**ヨハネ**を高く評価されました。
- ⇒**礼拝説教**は、「**神の御子**」が共におられることを語るので、安心して生活に戻れるのです。